



414
A1228

月俸規則

第一條

一 諸官員月俸ハ毎月十七日支給スルヲ定規トス

但シ免職病死旅行其他非常ノ事故アル時ハ此限ニアラス

第二條

一月俸ハ一月ヲ前後ニ分チ新任十五日前ニ在ル者ハ其全額ヲ給シ十
六日後ハ半額ヲ給ス昇等増給モ亦之ニ準ス降等及ヒ免職十五日前
ニ在ル者ハ猶舊等ノ俸半額ヲ給シ十六日後ハ其全額ヲ給スヘシ
但免職ノ者其擔當セシ事務引渡シニ付時日ヲ要スルモ別ニ俸ヲ
給セス尤モ更ニ引渡事務ヲ命スル者又ハ後日調査等ノ爲メ出廳
ヲ命スル者ノ如キハ此限ニアラス

大正十一年四月

第三條

一 上下半月内ニ免職ノ者再任スレハ前官ノ俸ハ勿論後官ノ俸ヲ併セ給ス譬ヘハ十四日免職即日再任スルトモ前官ノ俸半額并後官ノ俸全額ヲ支給スルノ類ナリ

第四條

一 一月内再三轉任スル者ハ月俸支給ノ定日在職ノ廳ニ於テ十五日前後ノ區分ヲ以テ通算シ其官相當ノ俸ヲ給ス若シ十八日後轉任昇等ノ者ハ新任ノ廳ニ於テ其増額ヲ給スヘシ
但シ武官月俸ハ日割ヲ以テ給ス故ニ武官ヨリ文官ニ轉任スルキハ總テ其月ハ月給同様見做シ十五日前後ヲ以テ區分シ其多キ方ニ因テ之ヲ給ス右ノ外日給ヨリ月給ニ轉シ月給ヨリ日給ニ轉ス

ルノ如キハ總テ此例ニ準スヘシ

第五條

一 外國并ニ内國トモ遠隔ノ地ニ在留ノ者轉任黜陟スルキハ宣旨其地ニ達シ當人受書ヲ出シタル日ヲ推シ十五日前後ノ區分ヲ以テ本官ノ月俸ヲ給シ又ハ給セサルヘシ

第六條

一 數官ヲ兼任ノ者ハ月俸ノ多キ方ニ就キ其廳ニ於テ之ヲ給シ同等ノ兼任ハ本務ノ廳ニ於テ之ヲ給ス兼任ノ月俸ハ別ニ給セサルヘシ

第七條

一 他所出張又ハ在勤命セラレ其地ニ於テ月俸支給スヘカラサル者ハ公務ノ長短ヲ量リ發程ノ節月俸ニケ月迄ハ繰上ケ支給スルモ妨ケ

ナシトス三ヶ月ヲ經テ猶ホ滞在ヲ要スルキハ亦右例ニ隨テ送致ス
ヘシ

第八條

一外國出張ノ者ハ發程ノ節月俸六ヶ月マテハ繰上ケ支給スルモ妨ケ
ナシトス六ヶ月ヲ過テ猶ホ在留スヘキキハ亦右例ニ隨テ送致スヘ
シ

第九條

一公使領事書記等ノ各員外國在勤ノ月俸ハ一月七月兩度ニ其半年分
宛ヲ送致ス尤モ送致ハ其二ヶ月或ハ三ヶ月前内地ヲ發セシムヘシ
各員赴任ノ時八月ノ順序ニ拘ハラス先ツ六ヶ月分ヲ支給ス尤任所
ニ於テ右月數ノ中ハ給セサルヘシ若シ一般送致金既ニ發スルノ後

ニ於テ新ニ拜命赴任スル者ハ前途送致ノ期月マテヲ合算シテ支給
スヘシ譬ヘハ送致金本年九月内地ヲ發シ十月赴任スル者ハ明年六
月マテ九ヶ月分ヲ束テ給スルノ類ナリ

但シ留守宅ニ於テ受取ラント欲スル者ハ其旨趣及ヒ請取名代人
ヲ定メ發程前ニ申請セシムヘシ第八條六ヶ月ヲ過キテ猶在留ス
ヘキ者モ亦同シ

一在留中免職ノ者ハ其月十五日前後ノ區分ヲ以テ計算シ過給ノ分
ヲ返納セシム第七條第八條出張中ノ者モ亦同シ

第十條

一轉任ニ就キ前官ニテ擔當セシ事務引渡シノ爲メ時日ヲ經未タ當官
ノ事務ニ着手セサルモ月俸ハ當官ヲ以テシ新任ノ廳ニ於テ給スヘ

シ

第十一條

一 公事ノ便宜ニ因リ雙方示談ノ上甲廳ノ官員ヲ乙廳へ借用スルコトアルモ其月俸ハ甲廳ヨリ給スヘシ

第十二條

一 廢廳ノ節人撰ノ上引渡シ事務ヲ命スル者ハ仍ホ舊官ノ月俸ヲ給スヘシ

第十三條

一 免職ノ者事務引渡シ濟ノ後在職中ノ事件ニ付更ニ出廳ヲ命スルハ舊官俸給半額日割ヲ以テ之ヲ給スヘシ
但シ在職中自己不正ノ事件ニ付キ出廳セシムルハ給セサルヘシ

シ

第十四條

一 免職ノ上御用滞在ヲ命スル者ハ滞在手當トシテ舊官月俸三分ノ一ヲ給ス

但シ右手當ハ上半月内免職ノ者ハ下半月ヨリ之ヲ給シ下半月内免職ノ者ハ翌月ヨリ之ヲ給ス滞在中再任上半月内ニアル者ハ其月分ヲ給セス下半月内ニアル者ハ上半月分ヲ給シ下半月分ハ給セサルヘシ

第十五條

一 許可ヲ得テ歸郷スル者ハ給暇中月俸半額ヲ給スヘシ
但シ計算方法譬へハ十五日前奉職地ヲ發足スル者ハ下半月分ヨ

リ減給シ十六日後發足スル者ハ翌月ヨリ減給スヘシ
 一歸郷中時宜ニヨリ公務ヲ命スルハ奉務中月俸全額ヲ給スヘシ
 但其日數ハ給暇中ニ算入セス且ツ己ムヲ得サル事故アリテ延期
 追願シ許可ヲ得ル者モ亦本條ノ通タルヘシ尤計算方法ハ前條ニ
 準據ス

第十六條

一病氣引ノ者ハ四ヶ月ノ間月俸全額ヲ給シ其後ハ三分ノ一ヲ給スヘシ
 但病氣引十五日ニ至ラハ必ス醫案ヲ副ヘ届ケ出猶ホ荏苒數月ニ
 暨フキハ六十日毎ニ更ニ其病狀ヲ届ケ出ヘシ病氣引日數ハ引籠
 ノ日ヨリ起算スヘシ

一若シ醫案ニ因リ奉職ノ地ヲ離レ郷里又ハ他方ニテ治療セント欲
 スル者ハ病症ノ輕重ニ從ヒ療養ノ日限ヲ定メ願出スヘシ尤モ許
 可日限滿チ未タ全癒ニ至ラサルキハ更ニ其狀ヲ具シ延期ヲ追願
 スヘシ此場合ニ於テハ奉職地出發前後ノ日數ヲ合算シ本條ニ據
 テ給スヘシ
 一歸郷中發病續キテ療養セント欲スル者ハ右同様上請スヘシ此場
 合ニ於テハ其月俸仍ホ第十五條ノ通り給スヘシ尤モ歸郷許可ノ
 日限ヲ除キ四ヶ月以上ニ及フキハ本官月俸三分ノ一タルヘシ
 一右病氣引四ヶ月計算ノ方法譬ヘハ十五日前引籠ノ者ハ下半月ヨ
 リ之ヲ算シ十六日後引籠ノ者ハ翌月ヨリ之ヲ算スヘシ

第十七條

一奉職ノ地ニ於テ父母病氣看護ノ爲メ休暇ヲ與フル者ハ第十六條ニ準ス

第十八條

一公事失錯等ニテ糺問中ハ月俸全額ヲ給ス私事ニ渉ル糺問ト雖モ日數十五日マテハ尙ホ全額ヲ給スヘシ預ケ中或ハ事故アリテ出仕差止ル者及ヒ私事糺問日數十六日以上ニ及フ者等ハ其月十五日前後ヲ區分シ減シテ五分ノ一ヲ給ス實決閏刑ニ處セラル者ハ一切給セサルヘシ

但出仕差止ル者及私事糺問十六日以上ニ及フト雖モ無罪ニ歸スルキハ全額ヲ給スヘシ

第十九條

一忌引中ハ月俸全額ヲ給シ且ツ父母忌中墓參ノ爲メ歸郷ヲ請フ者ハ其忌日限中ハ同ク之ヲ給シ其餘ノ日數ハ十五日前後ノ區分ヲ以テ第十五條ノ通りタルヘシ

但歸郷給暇中父母ノ喪ニ遭フ者モ亦第十五條ニ據ルヘシ

第二十條

一各廳ノ適宜ニ因リ御用掛リ無等ノ出仕或ハ雇抱等ノ名義ヲ以テ出仕セシメ十五等以上ニ當ル月俸ヲ給スル者ハ總テ前各條ニ準據スヘシ

第二十一條

一給仕小者小使ノ類并書記等一時雇入ノ賃錢等外一等以下ノ月俸ニ當ル者ハ雇入并放免ノ月端日數日割ヲ以テ給與スヘシ

第二十二條

一 免職又ハ奉職中病死ノ者ニハ其節ノ月俸半額ヲ以テ勤續キ一ケ年
ニ宛テ拜命以來ノ年數ニ乘シテ之ヲ賜ルヘシ若シ免職ノ時ニ當テ
破廉耻及ヒ私罪懲役一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ此限ニアラス
但シ年月計算ハ舊曆閏月ヲ除キ十二ケ月ヲ以テ一年トシ拜任ノ
月ヨリ免職ノ月マテ通算スヘシ任免ノ月并ニ壬申十二月ハ端日
數ト雖モ槩シテ一ケ月ト爲ス
一 滿年賜金ハ免職ノ節賜ルヘシ但シ免職ノ上即日再ヒ拜任スルト
雖モ固ヨリ勤續キニ非サルヲ以テ他日免職ノ節再任ノ月ヨリ更
ニ起算スヘシ
一 滿年ノ賜金ハ御用掛無等ノ出仕雇抱等ノ者ヘハ賜ハラヌ後日等

内外ニ遷リ勤續キニナルモ右名義中ノ年月ハ算入スヘカラス尤
モ己巳八月以前ハ此限ニアラス
一 女官ハ此規則ノ外タルヘシ

一 本宮へ復歸願ふ事

二 本宮へ復歸願ふ事

三 本宮へ復歸願ふ事